

油漏れ処理応急セット「オイルキャプチャー」取扱説明書

※適用油種：重機に使用する作動油（機械油）、軽油

■ オイルスポンジの油吸着量の目安



ペール缶 2.2kg/缶

300mm 角のアスファルト・
コンクリート上に油が漏れた
場合
➡10 回分使用可

■ 油とりクリーナーの使用量目安



①油膜消し(30 倍希釈)
②・アスファルト・コンクリー
ト上隙間に入った油の剥離
➡軽油は 30 倍希釈
➡機械油は 15 倍希釈

1 鋼板・アスファルト・コンクリート上に漏れた油の処理

(1) 鋼板などフラットな面に漏れた油の処理

「オイルスポンジ」を撒き、ホウキなどで「オイルスポンジ」と油を良く接触させ、チリトリにかき集めます。
油の又メ又メまできれいに除去できます。

(2) 鋼板などフラットな面の油膜消し

鋼板上の油膜に 30 倍希釈液を散布すると
油膜が消えます。

消えた油が再結合することはありません。



(3) アスファルト・コンクリート上に漏れた油の処理



①油の量と同量のオ
イルスポンジで表面の
油を荒取り



②油とりクリーナー
の希釈液で隙間に
入った油を剥離



③再度オイルスポンジ
で剥離された油を吸
着



④油の除去完了
油膜なし

注②) 隙間に浸透した油の剥離

「油とりクリーナー」の希釈液(機械油は 15 倍、軽油は 30 倍)を散布し、隙間内に「油とりクリーナー」が浸透するよう、ブラシで良くこすります。
5 分～15 分位後に隙間内の油が剥離して表面に浮上するのを待ち、再度「オイルスポンジ」で吸着させます。処理後は水を撒き、油膜が出なければ、作業完了です。

注③) 使用済みオイルスポンジの処分方法

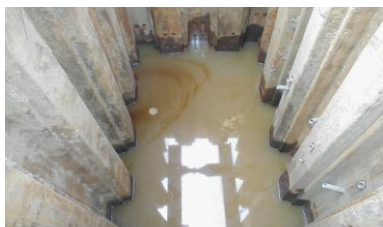
ポリ袋に回収して産業廃棄物として処分して下さい。

2 土壤に漏れた少量の油の処理



- ①「オイルスポンジ」を撒き、スコップなどで良くかき混ぜながら油を「オイルスポンジ」に吸着させます。
- ②水の中に処理済みの土壌を入れて油膜が出る場合は、油がまだ「オイルスポンジ」に全て吸着されていないので「オイルスポンジ」を追加して良くかき混ぜます。
油膜がなくなれば作業完了です。
その際、油臭も大幅に低減されています。

3 水面に浮上している油の処理



- (1) 薄い油膜～「油とりクリーナー」の希釈液散布
ノッチタンク、油水分離槽、窯場などで浮上している油膜には 30 倍希釈液の「油とりクリーナー」を散布すれば油膜は消えます。
- (2) 濃い油層状の油～「オイルスポンジ」の散布。
ノッチタンク、油水分離槽、窯場などで油層状の油が浮いている場合、「油とりクリーナー」の希釈液を散布しても効果がないので、「オイルスポンジ」を散布し、浮上している油を吸着させます。油を吸着して比重が 1 以上になると沈殿しますが、油は再溶出しません。沈殿したものは回収し汚泥として処分してください。

4 油漏れ処理応急セット「オイルキャプチャー」の中身が余った際の処理方法

(1) オイルスポンジ

- ①未開封のオイルスポンジは消費期限が 5 年間なので、期限内であれば次の現場でも使用可能です
- ②開封済みのオイルスポンジは目安として 1 年以内に使用して下さい。中身が余った場合は、専門部署に相談して、産業廃棄物として適切に処分してください。

(2) 油とりクリーナー

- 余った原液は、流して水道水と一緒に希釈しながら下水道に流してください（浄化槽・河川・海域には放流しないこと）。
- また油が付着した重機や車両などの洗浄にも使用できます。

5 使用上の注意

(1) 作業時

「オイルスポンジ」「油とりクリーナー」使用時には保護手袋、保護メガネを使用して下さい。

(2) 保管

本セットは直射日光を避けて、湿気のない通気性の良い場所に保管してください。

(3) 適用条件

オイルスポンジ・油とりクリーナーは海面には直接使用しないこと。

■使用上での不明な点がございましたら下記宛まで、お気軽にご連絡下さい。



株式会社バイオ・ジェネシス テクノロジー ジャパン
〒東京都港区赤坂 3-21-15 東都赤坂ビル
電話：03-3560-3885 FAX：03-3586-3810
担当：小林陽三
